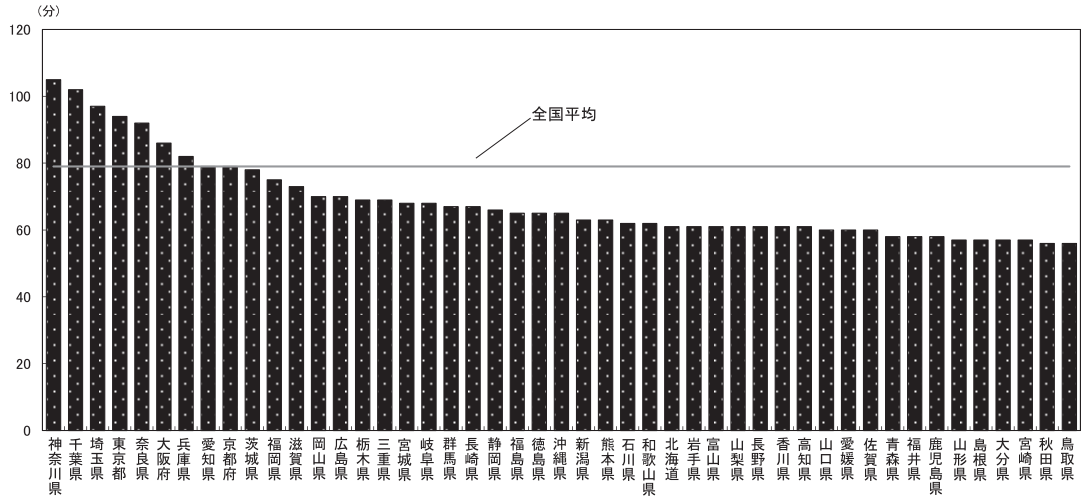
FOCUS・都道府県の統計

通勤時間の長い都道府県はどこ?

働き方改革の一つとして、通勤時間を削減できるテレワーク制度が近年注目されています。では、テレワーク導入によるメリットが大きいと考えられる通勤時間が長い都道府県はどこなのでしょうか。平成28年社会生活基本調査によると、一番通勤時間が長いのは神奈川県(105分)、次いで千葉県(102分)、埼玉県(97分)となっています。逆に通勤時間が最も短いのは秋田県や鳥取県(ともに56分)で、神奈川県より49分も短いです。職場のある都市部に時間をかけて通勤する人が多いことから、そのベッドタウンとされる県が上位に並んでいると考えられます。テレワークが全国的に普及していくことで、通勤時間の削減に繋がるとともに、より柔軟な働き方の実現が期待されます。

都道府県別・ 通勤時間(2016 年)



※通勤時間は行動者平均(実際に通勤した者のみについての平均)
(出所)総務省「平成28年社会生活基本調査」

編集後記

2018年度も折返し、そして平成最後の秋から冬。経済成長、景気に限って言えば2012/11を谷とした景気回復局面が続いており、2018/9までで70ヶ月連続景気拡張期が続いている。戦後最長の「いざなみ景気」(2002/1～2008/2、73ヶ月)越えも完全に視野に捉えたと言っていいほど実際は好景気が続いているわけだが、近頃はあまり経済のことがニュースにならない。多くの人にとって「景気拡大」という言葉が一つの記号のようにしか感じられないものになっているのかもしれない。

平均値は上がっていてもその個々のデータの分布の変化は実に多様だ。昭和の時代、「大衆」という言葉に多くの人は同じイメージを重ねることができたが、平成の時代では「大衆」と言っても人によってそのイメージはまちまちだ。それはそもそも昭和の時代の「大衆」がいなくなってしまったからではないのかとも思う。言われているように昭和の時代は色々な統計が正規分布で山がきれいな形だったが最近は山が低くなり裾野もそれなりに盛り上がってでこぼこしている。平均値はただの計算結果でしかなくそれ以上でも以下でもないという感覚を持つことが必要だと感じる。

景気回復が続く中で、超高齢社会に伴う様々な課題や格差の問題は表面には出にくいが問題が解消に向っているわけではないだろう。景気は必ず良いときもあれば悪いときもある。良いときに見えなくなったものは解決されたわけではないということ、良いときにやっておかなければいけないことがあるということ。近頃マクロ経済の調査分析を生業とするのであれば頭に入れておく必要があるだろうと思っている。 (H.S)